

これからの「働き方」を考える

# 仕事と生活の バランス

2013

# 夏

vol.16

WORK LIFE BALANCE

勤労者も家族も企業も、  
誰もが幸せになれる社会を。



## 2 センター開設5年目を迎えて

～新たな活動ステージへの移行～

## 4 「ひょうご仕事と生活の調和推進企業宣言」がスタート!

## 6 宣言企業から「認定企業」へ!

## 7 調べ隊の調査研究レポート

丸紅株式会社

## 8 相談員を派遣

「イキイキ職場」をつくるための職場内意識改革

## 9 2013年度 相談・実践支援事業の活動内容

## 10 介護を抱える勤労者支援に関する調査報告

## 11 助成金がさらに充実して、利用しやすくなりました!

## 12 私たちの仕事場 ～「仕事と生活のバランス」最前線～ 川崎重工株式会社

## 14 県政トピックス

子育て家庭応援テレビ番組「子育て情報ランド」が始まります!

## 15 各種支援制度と相談窓口

(公財)兵庫県勤労福祉協会  
ひょうご仕事と生活センター

相談員を派遣

## 「イキイキ職場」をつくるための職場内意識改革

光洋電機株式会社(神戸市)で、当センター外部相談員の藤井智美氏による「イキイキ職場をつくるための職場内意識改革」の研修が、2012年11月から13年3月までに4回実施されました。同社は2011年度のひょうご仕事と生活バランス企業表彰を受賞されましたが、さらにワーク・ライフ・バランス(WLB)を推進したいとの考えから、当センターに相談。この研修は、同社の女性社員9人が全員で話し合い、「もっとイキイキした職場にしたい」との共通の思いを抱いて社長に提案され、実現しました。



4回の研修は、WLBの導入研修に続き、業務の「見える化」に始まり課題の要因分析、アクションプランの考案へと進みました。具体的には、参加者9人の「対話型研修」で、全員が一つのテーブルにつき、課題について話し合いを続けました。

初回は、他社の事例紹介を含めて「WLBが実現した状態とはどのようなものか」を全員で考え、単に仕事と家庭の時間が50%ずつになるのではないこと、どちらも充実させるためには時間を重視した働き方が重要だということを学びました。それを基に、「何を実現したいのか」を話し合った結果、もっと有休を取得できるようになり、休日はリフレッシュや自己啓発に使いたいということが明らかになりました。その実現に向けて、現在の業務時間の使い方を「タイムチャート」で書き出し、「見える化」する作業を行いました。電話対応や受注業務などの短い細切れの時間の積み重ねになり、チャートに書き切れませんでした。そこで、方向性を変えて、課題の要因分析と具体的なアクションプラン作成を行いました。参加者は、月に1度の研修だけでなく、学んだことをすぐに日常業務の中で活かし、うまくいかないところは全

員で考えるようになったそうです。また、業務のペア担当制を部門で導入し、互いの業務を知る中で効率化の道筋が見えてきたとのこと。

最後には、「具体的な課題を見つけ、改善策を考え、行動に移すことで変化を実感でき、今後に期待が持てるようになりました」「セミナーを始めたころと比べて、今の状態の自分自身を思うと変化があり、参加して本当に良かったと思います」などの感想が寄せられました。これをきっかけに、今後は、男性も含めて社内全体に研修を展開していくとのこと。



今回のセミナーを通じて、時間の意識といった私たちだけではきっと気付かなかったことについて気付くことができ、WLBの実現に向けさらなる努力をする必要性を感じました。

セミナーの中で挙げた具体的な課題・改善策を実現させてこそ、セミナーに参加した意義があります。チーム一丸となり、WLB実現の目標に向け、今後も努力してまいります。

(光洋電機担当 者 福森 文子氏)